

Jung Sun Hong (著), 紀伊克昌 (監訳)

正常発達 第2版 —脳性まひの治療アイデア

伊藤 直子

(株式会社かなえるリンク, 作業療法士)



今回、韓国のPTであるHong氏による、正常発達の質的評価を脳性まひ児治療へ応用するヒントを満載した『正常発達 第2版—脳性まひの治療アイデア』が翻訳された。GMFCS(粗大運動能力分類システム)に沿った運動の質的評価システム等、Hong氏ならではの新しい提案を盛り込んだ待望の書である。Hong氏は、英国でボバースコースを受講され、その後韓国での脳性まひ児治療を发展させた優秀な先駆のセラピストであるとともに、アジア全域に脳性まひ児治療を拡大し続ける壮大なスケールのPTである。ABPIA(アジア小児ボバース講習会講師会議)の場でお会いするたびに、力強い臨床活動ならびに、講習会の展開が紹介される。その圧倒的な指導力と行動力で現在は、フィリピンでの臨床活動や講習会運営に尽力されており、繊細かつ大胆な治療、目に見える成果、説得力のある臨床推論、独自の治療アイデア、人の輪の広がりを実実に実現されている。

日本に脳性まひ児の早期治療の考え方が導入されてすでに40年以上になる。成長していく子どもたちと共に新たな課題に立ち向かってきたが、時にはその障害の困難さに、私たち自身がくじけそうになる。今回、付録としてGMFCSに沿って質的評価を記載できるよ

うに工夫された評価表が添付されている。GMFCSが3より重度な脳性まひ児は特に、その機能の維持さえも難しく、年齢を重ねた成人には二次障害のリスクも強くなる。それらを予防するためには、年齢やライフステージに沿った治療展開、母親や家族、学校や地域の支援者を巻き込んだ療育環境の整備も不可欠である。継続的な治療で子どもの生活や人生を支えるために、実は、出生時からの、あるいは胎生期からの、子どもの発達のスタート時期の分析が重要で、そこから治療アイデアが創造される。基本は忘れず、かつ、年齢や状況に応じて応用を利かせ、子どもたちの要請に応えるために、多くの実際的なアイデアが必要となる。

最近みられる低出生体重児は、その出生のタイミングのずれから運動と認知発達にばらつきがみられる。視覚や聴覚認知の発達にも混乱が生じる。そのアンバランスに一番こころを痛めているのは子どもたち自身であり、その優れた潜在能力をうまく引き出してもらえないと、こころの発達にも支障をきたす。私たち子どもにかかわる臨床家はあらためて周産期の子どもの発達と、最も重要な環境である母親の心理的サポートのために、定常発達を知らなくてはならない。また、私自身は、この発

達過程を学生、特に入学して半年の後期授業で実習しながら指導するようにしている。これは、学生自身に自己の身体イメージを明確に振り返る機会を与え、発達の不思議とその理解を通じて子どもだけでなく、大人にも、高齢者にもさまざまな支援のアイデアが創出でき、「自己の身体感覚を通じて人の治療ができる専門職である」という自覚を芽生えさせる。また、人との相互作用を体験する。

家庭の中で、子どもたちが繰り返す動き、過ごす時間、新しい課題が出たときの取り組みの特徴は、生下時から連続している。最近、発達障害児を家庭で支援する機会を得た。そして、その子どもたちが脳性まひ児に共通の運動障害をもつことに気づいた。この本は、脳性まひ児だけでなく、不器用といわれる発達障害児や、重症心身障害児に対する支援のためにも有効なアイデアが盛り込まれている。乳幼児の発達における感覚運動経験の重要性をあらためて思い起こすとともに、アジアの子どもたちの未来に向けた可能性を拡大するエネルギーを感じ、もう一度、初心に戻って勉強してみませんか？

〔B5判 200頁 3,800円+税〕
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357